

開催日時：平成18年5月29日（月） 15：00～18：30

場 所：大阪府立労働センター（エルおおさか）6階 606号室

出席委員：池淵委員長、井野瀬委員、高橋委員、中川委員、弘本委員、堀野委員、増田委員、
山下委員

1. 議 題

- (1) 一級河川淀川水系西大阪ブロック河川整備計画について
- (2) 一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について

2. 概 要

- 一級河川淀川水系西大阪ブロック河川整備計画について

(まとめ)

西大阪ブロックの河川整備計画について、これまでの委員会での指摘事項を踏まえ説明した。事業の実施にあたっては、本委員会での議論などを反映することとし、河川整備計画の申請手続きに移ることとなった。

(委 員) 河川整備計画を誰に対して示すのか考えて、専門的な文章表現は控えた方がいいのでは。

(事務局) 河川整備計画は、広く府民の方々に見ていただくので、文章表現については精査します。

(委 員) 高潮高、津波高の表現については、全体の整合性を考えたものにしていただきたい。

(事務局) 文章表現はバランスを考え精査します。

(委 員) 多数の施設があるので、計画的な維持管理を行う必要がある。

(委 員) 「第3章その他河川整備を総合的に行うために必要な事項」の中で、地震学というのは日々新しい情報があるので、「新たな知見も踏まえ」などの表現を加えてはどうか。また、市街地の川に自然植生が少ないのは当たり前なので、公園緑地などを評価した表現にしてはどうか。

(事務局) 「第4章3.河川整備計画の適用」で「新たな知見・技術の進歩等によって、適宜整備計画の見直しを行います。」との記述があるが、地震対策に関しては、さらに「新たな知見を踏まえ」の表現を追加していきたい。環境整備で護岸緑化の記載もあるので、都市における河川空間のあり方として、「河岸の緑化」などを追加していきたい。

(委 員) 「社会環境特性」に関して、都市部の土地利用状況が変化し人口が増加していることを踏まえた、河川情報の提供や管理、治水のあり方を表現していただきたい。

(委 員) 「社会環境特性」の中で、流域のかなりのエリアが「都市再生緊急整備地域」になっており、市街地更新が起こる可能性を持っていることを記述する必要があるのではないか。また、大川筋などが大阪市の「景観形成地域」に指定されていることや、都計公園

などを意識した文章表現にする必要があるのでは。

整備箇所の図と表の整合を確認すること。

(事務局) 土地利用状況の変化や、景観形成地域などの指定状況を踏まえた文章表現になるよう精査します。

(委員) 八軒家浜はあの周辺一帯が歴史的な地域であるが、整備が左岸のみであるのはなぜか。

(委員) 左岸に船着場を整備することで、そこを水陸交通の拠点とする考えであり、右岸は公園であるため、水上カフェなどの有効活用の検討はしているが、当面は八軒屋浜（左岸）を整備したい。

(委員) 一般の方でも理解しやすいように、専門的な単位などの表現は注釈を付けるなどの対応をしてはどうか。

(事務局) 河川整備計画は、広く府民の方々に見ていただくので、文章表現については精査します。

(委員) 「西大阪ブロック河川整備計画（案）」については、内容も概ね同意できるものであったので、本日の各委員の指摘を踏まえ文章を分かりやすいものにしていただき、以後申請手続きに移っていただきたい。

○一級河川淀川水系神崎川ブロック河川整備計画について

(まとめ)

神崎川ブロック河川整備計画について、河川整備計画（原案）をもとに審議を行った結果、今回の指摘事項を踏まえ住民意見の聴取手続きを行い、河川整備計画（原案）の修正案を作成し、次回審議することとなった。

(委員) 治水安全度という言葉はわかりにくい。住民に洪水危険度を示す指標を考えるべき。最低限の達成目標をどう示すかが課題である。

(委員) 市民からすれば、河道の状況がどの程度まで安全なのかが問題である。

(事務局) 治水安全度は資料にもたとえば 1/10 の治水安全度の説明を示した。計画を考える時の降雨を日雨量または時間雨量で整理したものである。いろいろな表現があるが降雨の確率で表す手法を行ってきた。

(委員) 日雨量、時間雨量は理解しにくい。現状の河道の能力と目標との比較がないといけない。また、川の危険度マップなどは作成しているのか。

(事務局) 危険度を知らせる一つの手段として、流下能力図を資料に添付している。また、別途ハザードマップを作成している。

(委員) 同じ水系内で日雨量を採用する河川と時間雨量を採用する河川があることの説明が必要では。

(委員) 現況の河川の対応状況を雨量で示せば分かりやすい。

1/10 確率の降雨というのは 10 年に一度これより大きい雨が降るという意味である。堤防強度の概念も安全度には勘案されていない。

(委員) 堤防の構造は、河川管理施設等構造令に基づくものを作るので、1/10 確率の降雨で安

全な堤防を作るという表現には、構造の安全性も含まれる。

(委員) 実際の堤防は水位や流量で表せば分かりやすいのだろうが、データ整理が雨量が充実しているため、これまで雨の確率を指標としている。

(事務局) 危険を知らせる場合の指標としては、川の水位で示すことができるが、河川計画を立てる場合は、現在は降雨量から計算する方法をとっている。堤防の安全性は引き続きチェックしていきたい。

(委員) 大流域が日雨量、支川が時間雨量で計画していることを解説しておいたほうが良い。同じ1/100の確率の時間雨量が天竺川は85mmで、ほぼ隣の流域である高川・糸田川が84mmとはどういうことか。

(事務局) 府内を5ブロックに分けて雨量を統計処理している。天竺川と高川がちょうど境目となり、統計データの違いによるものである。

(委員) 計画期間の15年でダム completionにより下水道計画の放流の受け入れが可能となる。毎年のように発生している内水被害が下水道整備が進むことで少なくとも1/10確率の降雨までは解決することを書き込めないか。住民の立場としてはそれが重要。行政一体となって是非説明していただきたい。

(事務局) 「第3章1. 地域や関係機関との連携に関する事項」の中で、「計画的な下水道整備の促進に向けての協議を積極的に実施していきます。」と記載しており、各市の下水道部局と定期的な情報交換を行っていききたいと考えている。ただし、15年間で具体的な下水道整備率を示せるかは、今はお答えできない。

(委員) 川は支川1/10、本川1/40の安全度が確保されるが、流域の安全度としては下水道整備と連動する必要があると考える。

(事務局) 下水道の整備は市によって進捗が違う。整備率が低いところは緊急に水路を利用してポンプ場まで排水している場合もある。

(委員) 下水道の目標を数値化して書けないか。

(事務局) 下水道部局とさらに協議したい。

(委員) 貯留施設が支川で計画されているが、どこに存在して能力が分かる資料を添付すべきでは。「社会環境特性」の中で、人口の変化がないとのことだが、高齢化と少子化などの人口の質の記述も必要では。「第3章2. 河川情報の提供に関する事項」の中で、人口の質を考えると出前講座等が子供以外も対象とするような絵がほしい。生活の中に河川を組み込んでいく取り組みを表現してほしい。

(委員) 本川と支川のバランスについて、流量の算定手法が異なる。本川は日雨量、支川は時間雨量で計算されている。本川と支川のバランスなど、流域全体としての安全度はどうなるのか。

(事務局) 流域全体で1/10確率の降雨への対応を行いたい。本川は既に対応されているが、流域の重要性を考え1/40確率の降雨まで対応したい。

流域全体モデルでの1/100降雨での各支川のピーク流量と、個別の支川モデルのピーク流量はほぼ同じで、個別の支川モデルが若干大きい程度である。整理して次回示し

たい。

(委員) 「河川環境の現状と課題」中の動植物については、一つの支川が2つのエリアに分割されたり不連続な場所がひとつのエリアにまとめられたりして書かれているので、流程に沿った生物分布がわかりにくい。生物分布の記載は前の方の「流域の特性」の中で行き、「現状と課題」ではエリアごとの問題点の抽出と課題を書くようにすればどうか。

(委員) ブロック分けの議論を崩すのはまた議論が必要でないか。

(事務局) 河川特性の項目に生物の観点を織り交ぜるなど文章表現は精査する。

(委員) 「流域市の概要」の内容は、歴史的な観点だけではなく、現状の内水域などの問題を踏まえた行政区ごとの表現にしてはどうか。「行政区別の流域の概要」としたほうがふさわしいのでは。

(委員) 河川整備にあたっては、ダムの予定地では、現状として代替地造成、生活再建などいろいろな事業をやっている現状を踏まえて行うべきであり、記述していただきたい。

(事務局) 流域内でいろいろなプロジェクトや取り組みが行われているし、ダム事業の現状も含め記述していきたい。

(委員) 本日の指摘事項やこれまでの委員会審議の経過の記載などを踏まえ、住民意見の聴取を行い、多様な意見を反映した修正案を作成していただき、次回審議したい。